建部凌岱「海鮮図」（青森県立図書館）

建部凌岱

その生涯、たけべりょうたい

酔（よい）たるか 醒（さめ）たるか

展

板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM

2022年3月12日［土］ ―― 4月17日［日］

開館時間 ｜ 9：30 ── 17：00（入館は16：30まで） ｜ 休 館 日 ｜ 月曜日（ただし3月21日［月］は祝日のため開館、3月22日［火］は休館）
観 覧 料 ｜ 一般650円｜高校・大学生450円｜小・中学生200円 土曜日は小・中・高校生は無料。65歳以上高齢者割引、障がい者割引あり。（要証明書）
主　　催 ｜ 板橋区立美術館、東京新聞

板 橋 区 立 美 術 館

〒175－0092 東京都板橋区赤塚5－34－27｜電話｜03－3979－3251
https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、マスクを着用されていない方はご入館いただけません。原則としてグループでのご観覧はご遠慮ください。館内では係員の指示に従って下さい。また、記載内容について変更する場合がございます。予めご了承下さい。

建部凌岱（たけべりょうたい）展

その生涯、酔（よい）たるか醒（さめ）たるか

板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM

二〇二二年三月一二日［土］――四月一七日［日］

開館時間／九時三〇分――一七時（入館は一六時三〇分まで）／休館日／月曜日（ただし三月二一日［月］は祝日のため開館、三月二二日［火］は休館）
観覧料／一般六五〇円／高校・大学生四五〇円／小・中学生二〇〇円 ＊土曜日は小中高校生は観覧無料。六五歳以上・障がい者割引あり。（要証明書）
主　催／板橋区立美術館、東京新聞
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクを着用されていない方はご入館いただけません。原則としてグループでのご観覧はご遠慮ください。館内では係員の指示に従ってください。また、記載内容について変更する場合がございます。予めご了承ください。

板橋区立美術館
〒一七五―〇〇九二 東京都板橋区赤塚五―三四―二七　電話：〇三―三九七九―三二五一
https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/

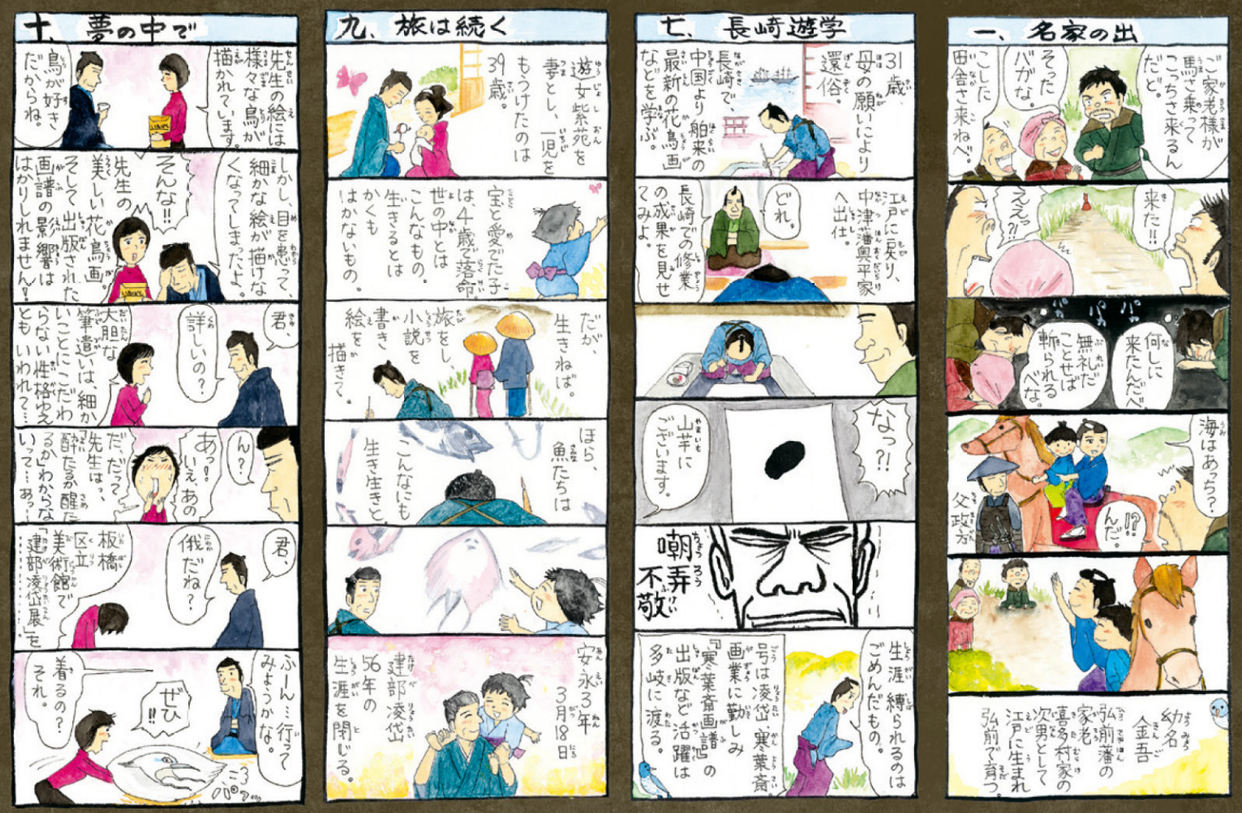
江戸時代中期に活躍した建部凌岱（たけべりょうたい）（一七一九～一七七四／号に涼袋、吸露庵、寒葉斎、綾足など）の、本格的な展覧会を行います。

凌岱は、弘前藩の家老喜多村家の次男として江戸で生まれ、弘前で文武両道の教育を受けました。しかし、兄嫁との道ならぬ恋の噂により二〇歳で出奔、出家して説教僧となり後に還俗、俳諧で身を立て、主に江戸と京都を拠点として各地を遊歴しました。ところが、片歌の唱道者として開眼した途端、俳諧をあっさりと捨ててしまいます。歌人、随筆家、読本作家、国学者としても活躍し、有り余る才能を縦横無尽に発揮した凌岱。『続近世畸人伝』（一七九八年刊）において「大胆で勇気があり、抜群の才能を持ち、世を弄んで終生を遊びのように考えた、生涯酔っているのか醒めているのか計り知れない人」などと評されています。

俳諧で意気投合した彭城百川に影響を受け、凌岱は画事にも打ち込みます。百川などから聞く長崎の話は大変魅力的だったのでしょう。江戸の絵師の先駆けとして寛延三年（一七五〇）に長崎へ遊学しました。唐通事の熊斐や唐絵目利の石崎元徳らに色鮮やかで写実的な花鳥画を学び、宝暦四年（一七五四）に再訪した折には、山水画の名手である中国清代の絵師・費漢源に師事します。これらを通して、中国から舶来した最新の様式をも習得し、独自の画風を確立しました。『寒葉斎画譜』『建氏画苑』といった画譜の刊行は、その成果と言えるでしょう。粗く大胆な筆遣いの作風で知られた凌岱の作品の中でも、豊富な海の魚介を描いた「海錯図」と呼ばれる作品群からは、ユーモア溢れる一面も窺えます。

本展を通じて、画業を中心とした凌岱の多彩な活動をご堪能いただければ幸いです。

◉ 特別企画　森栗丸氏により、凌岱の生涯が漫画化！　会場では、描き下ろし作品全10話の原画を展示いたします。



森栗丸

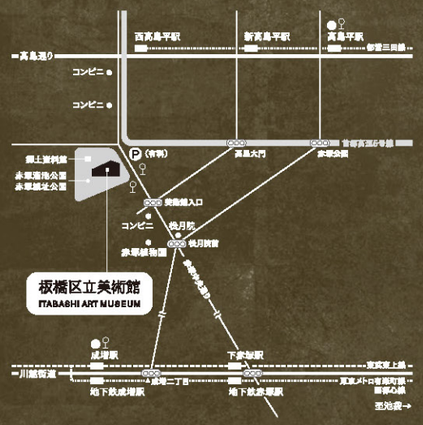
1990年に小学館「ビッグコミックオリジナル」誌上の「あじさいの唄」でデビュー、2015年まで長期連載。1998年、日本漫画家協会賞優秀賞受賞。2012年～2017年まで東京新聞ほかで4コマ漫画「おーい栗之介」を連載。上記の舞台は江戸時代で、心温まる作風で知られる。近作に『もふもふ』（小学館）。

◉ 関連イベント

○「建部凌岱の命日を偲んで」｜3月18日（金）　当日ご観覧の方へ、ささやかなプレゼントを差し上げます。

○ 講演会｜3月20日（日）14:00～15:30（開場13:30から）「建部凌岱の生涯と画業」講師 植松有希（当館 学芸員）
定員40名 当館1階講義室にて、聴講無料、当日会場へお集まりください。
申込方法：3月5日（土）9:00より電話にて先着　※1申込につき2名まで　申込先：03-3979-3251（当館直通）

＊ 記載内容について変更する場合がございます。予めご了承下さい。



◉交通案内

徒歩　都営三田線「西高島平駅」下車、約13分

路線バス（1時間に1～2本　所要時間約10分）
①東武東上線「成増駅」北口2番のりば
「増17 区立美術館経由 高島平操車場」行きにて
「区立美術館」下車　＊東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可（5番出口）
②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば
「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行きにて
「区立美術館」下車

タクシー　東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分

建部凌岱「海錯図」左隻（青森県立図書館）

◉ 板橋区立美術館で行う展覧会予定

2022年4月29日（金）～6月5日（日）
館蔵品展　区制施行90周年記念
「井上長三郎・寺田政明・古沢岩美の時代――池袋モンパルナスから板橋へ」

6月25日（土）～8月7日（日）
「2022イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

プロローグ

a　竹内玄玄一著・蓬廬青菁編・北尾政美画『俳家奇人談』（個人蔵）

b　建部凌岱（凉袋）「野僧焚火」（青森県近代文学館）

c　彭城百川画、建部凌岱（都因）句「通圓茶屋」（個人蔵）

d　建部凌岱「四季竹図」（青森県立図書館）

e　建部凌岱「虎図」（弘前市立博物館）

f　建部凌岱「威振八荒図」（個人蔵）

g　建部凌岱「海棠三白頭翁図」（個人蔵）

h　建部凌岱「海鯖図」（個人蔵）

i　建部凌岱「魚図」（弘前市立博物館）

j　建部凌岱『建氏画苑』別冊「海鯖図」（個人蔵）

k　建部凌岱画、金龍道人賛「千巖懸水図」（世田谷区立郷土資料館）

l　建部凌岱「雪中富士図」（個人蔵）

m　建部凌岱『本朝水滸伝』（青森県立図書館）

◉展示の主な内容 ― 本展では、約80点の作品を公開します。ここでは、その見どころと作品の一部をご紹介いたします。

プロローグ

作品以上に、その数奇な生涯や有り余る才能が語られることも多い凌岱。若き凌岱の「道ならぬ恋」の記録とされた書簡や自筆による旅の回顧録、後世に圧倒的な影響を与えた評伝『続近世畸人伝』などを通し、凌岱その人に迫ります。

1　軽妙洒脱な自画賛

凌岱は出奔後すぐに俳諧修行に勤しみ、俳画や俳書挿絵なども精力的に手掛けるようになります。俳諧から片歌へ転向した後も変わらずに、画文が一体となった軽やかで洗練された作品を生涯制作し続けました。

2　ピックアップ①「墨竹図」

凌岱の号「寒葉斎」には、竹の意味が込められていると考えられています。凌岱は墨竹図を特に好んで描き、俳諧や片歌でも竹を詠じ、中国清代の絵師・李用雲の描く墨竹図を模写した『李用雲竹譜』を上梓しました。

3　花鳥画で示した存在感

遊学先の長崎では、色鮮やかで写実的な画風をはじめとする中国舶来の最新の様式を学んだ凌岱。この経験に裏打ちされた異国趣味あふれる作品から、細部を気にしない自由闊達な作品まで、絵師として名を広めた花鳥画の数々をご覧いただけます。

4　ピックアップ②「海鯖図」

豊富な海の魚介を表現した一連の「海鯖図」は、とりわけ独創性の高い作品です。画譜から屏風に至るまで、粗い筆でのびやかに描かれた魚介たちは、何ものにも囚われない凌岱らしさをよく表しています。

5　山水画に執心する

再遊した長崎で山水画の名手である中国清代の絵師・費漢源に師事し、大坂の蒐集家・木村兼葭堂所蔵の山水画帖を模写するなど、凌岱は山水画にも熱心に取り組みました。それらの作品からは、学習成果を真摯に表そうとする姿勢が感じられます。

6　建部綾足としての活動

「建部綾足」とは、国文学者や小説家としての名です。曲亭馬琴に「読本の祖」と評された長編『本朝水滸伝』や、後に幸田露伴が校訂した随筆『折々草』をはじめ、古典への回帰を見せながら新たな表現を求め続けたその活動をご紹介します。